

3. 子どもへの支援策、学校や給食支援の充実をもとめて

- ① 子どもや教員に無理がある詰め込みではなく、学校現場・教員に裁量を保障する丁寧な指導を
- ② 子どもたちの心のケアと、今後考えられている対策は
- ③ ネット環境が家庭にない子どもたちや障がい児の家庭に対しての教育支援と今後の支援策は
- ⑤ 清掃消毒のための職員を雇うなど、現場の負担が増えないよう対策を
- ⑥ 教員の増員を国に要請し、少人数学級の実現を

【答弁】

3. 子どもへの支援策、学校や給食支援の充実をもとめての①から③及び⑤⑥について順次お答えいたします。

はじめに、①についてお答えいたします。

学校では新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業が明け、6月15日からは、一斉登校による学校教育が再開されております。

現在の子どもたちの学習状況につきましては、長期の在宅期間の影響から、遅れが生じているのが実情でございます。

今後の子どもたちの学びの保障につきましては、単に学習時間を確保することだけに注力するのではなく、学校現場・教員の裁量を保障しながら個に応じた丁寧な指導が必要であると認識しております。

これまでも、学校訪問による状況把握を行うとともに、学校長との情報共有、意見交換を行い、各校においては実情に応じた取組みをすすめてまいりました。今後の教育課程の実施にあたっては、各校に好事例を紹介するなど、引き続き、学校現場の実情に応じた教育活動が実施されるよう、教育委員会として各学校と連携して支援してまいります。

次に、②についてお答えいたします。

この間の臨時休業で日常生活は大きく変わる事態となり、子どもたちは、友人関係や学習、進路や将来のことなど、様々な思いや悩みを抱えながら過ごしてきたと考えられます。

学校再開後におきましても、「朝が起きられない」「何もやるきがでない」というような心身の不調を訴える子どもの声も聞かれております。

現在、学校では教職員が子どもたちや保護者から聴き取りながら様子を把握したりして、その状況を教職員で共有しているところでございます。

今後も、各学校において子どもたちが相談しやすい雰囲気づくりを大切にしながら、カウンセリング週間の早期実施、スクールカウンセラーが校内巡回を行い

子どもの状況を把握する等の積極的な活用を推進することで、子どもたちの心身の健康保持のため、学校を支援してまいります。

次に、③についてお答えいたします。

臨時休業中の学習保障につきましては、これまでより、全ての子どもたちの学びを保障する観点から、家庭で学習を進められるように復習プリントや課題の提示等を行ってまいりました。さらに、在宅期間が長期化する中にあっては、子どもたちの学習へのサポートを増やすための一つ的手段として、ICT を活用した家庭学習を紹介させていただいたところでございます。

今後につきましては、第2波による臨時休業も想定し、子どもたちが学校や家庭で自分のペースで学びをすすめられる学習支援が必要であると認識しております。そのため、本市では全ての子どもたちの学びを保障する観点から、ネット環境がない家庭でも、ソフトをダウンロードした端末を貸し出すことで利用できる学習ドリルソフトの導入を進めているところでございます。

障がいがある子どもがおられる家庭につきましては、臨時休業期間中も支援学級の担任等が家庭訪問や電話等で保護者と連絡を密に取り合い、状況を把握しながら個別に対応してまいりました。今後も、引き続き保護者や関係機関との連携を密にし、子どもたちの支援に努めるよう学校を指導してまいります。

次に、⑤についてお答えいたします。

現在、文部科学省から、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、学校現場に施設等の消毒が求められているところであり、実際に教職員が子どもの帰宅後、日々、消毒作業を行っているところでございます。

しかしながら、議員ご指摘のように、学校での清掃や消毒作業等により、授業の準備など教育活動に影響がでないようにすることが必要でございます。

そのため、本市教育委員会といたしましては、新型コロナウイルス感染症対策で増加する教職員の業務をサポートし、教員が子どもの学びの保障に注力できるような対策が必要と考えるため、今後、追加配分が予定しております、「新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金」も含めて検討してまいります。

次に、⑥についてお答えいたします。

教室での子どもたちの人数を減らし、密集・密接を避けることは、新型コロナウイルス感染症対策においても重要な取組みの一つでございます。また、少人数学級での授業は、今後の子どもたちに、きめ細かな指導を行うための有効な方法の一つでもあります。

本市教育委員会といたしましては、このような少人数学級を実現することは、子どもたちの健やかな育成を図るために重要であると考えております。こうしたことから、市独自で実施している少人数学級編制の拡充について研究を進めるとともに、引き続き、国や府に教員定数の改善を要望してまいります。